

テーマ： 6月商業販売統計

発表日：2005年7月28日（木）

～4-6月期の小売業販売額は前年比+3.3%とプラスが明確化～ (No. J-72)

 第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 齋藤 俊輔

TEL：03-5221-4547

(要旨)

- 6月の商業販売額は前年比+2.3%と13ヵ月連続の増加となった。内訳をみると、卸売業が同+2.1%と13ヵ月連続の増加、小売業が同+3.1%と4ヵ月連続の増加となった。
- 小売業販売額の内訳をみると、燃料小売業（前年比+16.0%）、自動車小売業（同+7.5%）、織物・衣服・身の回り品小売業（同+2.6%）、飲食料品小売業（同+0.7%）、その他小売業（同+3.5%）が増加に寄与した一方、各種商品小売業（同▲0.8%）、機械器具小売業（同▲4.0%）は減少に寄与している。燃料小売業は石油製品価格の上昇による名目値での押し上げという傾向に変わりはない。また、織物・衣料・身の回り品小売業はクールビズ効果で紳士服に動きがあったことに加え、平均気温が平年より高めだったことで夏物衣料品が比較的好調であった。
- 4-6月期の小売業販売額は前年比+3.3%と、1-3月期（同0.0%）からプラスが明確化した。石油製品の価格上昇による名目値での押し上げという傾向を割引いても、4-6月期の小売業販売額は堅調な仕上がりだったといえる。先行きは消費マインドが高水準で推移していることを考えれば、7-9月期も個人消費が景気を下支えする可能性が高い。

		商業販売額										コンビニ販売額		
		卸売業		小売業		大型小売店			百貨店		スーパー		前年比	既存店前年比
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店前年比	既存店前期比	既存店前年比			
03	7-9月期	▲1.2	▲1.1	▲0.9	▲1.6	▲2.2	▲0.9	▲2.0	▲4.3	▲3.0	▲5.2	▲0.1	▲3.9	
	10-12月期	0.0	1.7	0.4	2.6	▲1.2	0.3	▲1.9	▲3.1	▲2.2	▲4.0	2.2	▲1.5	
04	1-3月期	0.9	▲0.8	1.1	▲1.2	0.2	0.7	▲0.5	▲2.1	▲0.8	▲2.9	2.2	▲2.1	
	4-6月期	1.3	1.7	2.4	2.5	▲1.9	▲1.8	▲1.8	▲3.9	▲2.9	▲4.6	2.1	▲1.4	
	7-9月期	3.4	0.9	4.5	1.3	▲0.3	0.4	▲0.9	▲3.4	▲3.2	▲3.6	4.3	1.1	
	10-12月期	3.1	1.0	4.2	1.0	▲0.5	0.3	▲2.0	▲4.6	▲3.9	▲5.1	2.1	▲1.1	
05	1-3月期	2.1	0.0	2.7	▲0.5	0.0	2.3	▲1.5	▲4.1	▲3.2	▲4.8	0.5	▲2.1	
	4-6月期	2.8	1.0	2.7	1.0	3.3	0.2	▲0.4	▲2.5	▲0.4	▲3.9	1.9	▲1.5	
04	6月	3.3	2.1	5.1	2.4	▲2.5	0.1	▲2.9	▲5.0	▲5.4	▲4.6	▲0.5	▲3.8	
	7月	4.8	1.5	6.2	2.6	1.0	0.1	0.6	▲1.5	▲0.8	▲2.1	9.9	6.5	
	8月	3.6	▲1.2	5.3	▲2.0	▲1.6	0.4	▲2.8	▲5.4	▲4.7	▲5.8	2.3	▲1.0	
	9月	1.8	▲1.5	2.4	▲2.2	▲0.3	0.8	▲0.8	▲3.5	▲4.2	▲3.0	0.6	▲2.1	
	10月	0.9	▲3.0	1.4	3.4	▲0.9	0.1	▲1.6	▲4.2	▲3.5	▲4.7	2.1	▲1.1	
	11月	5.7	▲0.6	7.4	▲0.1	0.6	▲0.8	▲2.7	▲5.3	▲5.4	▲5.2	2.1	▲1.3	
	12月	2.7	▲0.4	4.0	▲0.5	▲1.0	0.2	▲1.8	▲4.2	▲2.8	▲5.3	2.2	▲0.9	
05	1月	3.8	3.8	4.3	3.1	2.4	4.6	1.4	▲1.2	0.7	▲2.6	1.3	▲1.9	
	2月	2.2	▲2.3	3.8	▲1.7	▲2.7	▲2.6	▲4.2	▲6.7	▲7.2	▲6.3	▲1.9	▲2.8	
	3月	0.7	▲4.8	0.9	▲6.1	0.3	▲1.2	▲2.4	▲4.5	▲3.2	▲5.5	1.9	▲1.5	
	4月	3.1	6.9	2.9	8.1	3.8	2.8	▲0.5	▲2.3	▲0.5	▲3.6	2.3	▲1.2	
	5月	3.1	▲3.5	3.2	▲4.0	2.9	▲1.4	▲0.5	▲3.1	▲1.4	▲4.2	1.3	▲2.0	
	6月	2.3	2.0	2.1	2.2	3.1	0.1	▲0.2	▲2.1	0.7	▲3.9	2.2	▲1.4	

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

● 6月の商業販売額は前年比+2.3%（卸売業+2.1%、小売業+3.1%）

6月の商業販売額は前年比+2.3%と13ヵ月連続の増加となった。内訳をみると、卸売業が同+2.1%と13ヵ月連続の増加、小売業が同+3.1%と4ヵ月連続の増加となった。また、大型小売店販売額は前年比▲2.1%（既存店）とマイナス幅が縮小、業態別にみると百貨店販売額が同+0.7%と増加に転じたものの、スーパーは同▲3.9%とマイナス幅が縮小した。小売販売額は事前のコンセンサス通り（中央値：+3.0%、レンジ：+0.5～+4.3%）の結果であり、個人消費が堅調であったことが示唆されよう。また、4-6月期の小売業販売額も前年比+3.3%と、1-3月期（同0.0%）から明確に増加、前期比でも同0.2%と4四半

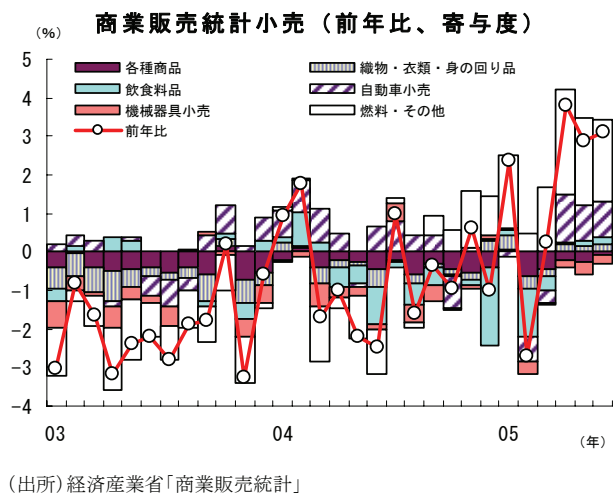
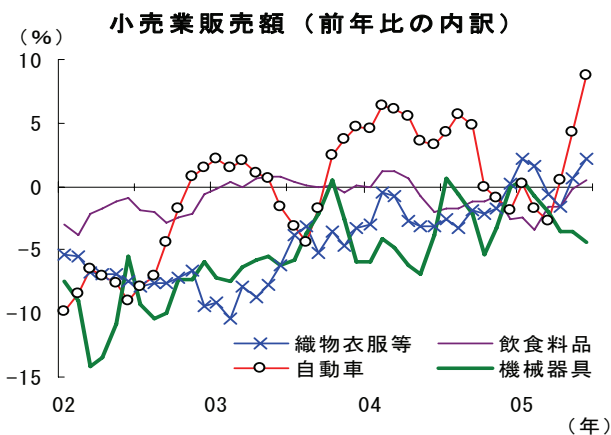
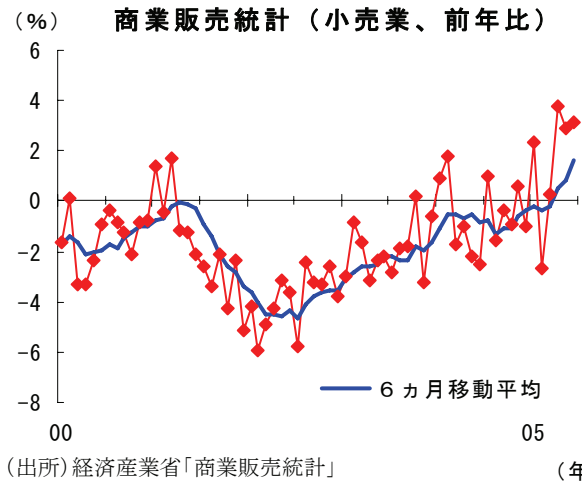
期連続で増加となっている。

●クールビズ効果で紳士服を中心に夏物衣料品に動き

小売業を業種別にみると、燃料小売業（前年比+16.0%）、自動車小売業（同+7.5%）、織物・衣服・身の回り品小売業（同+2.6%）、飲食料品小売業（同+0.7%）、その他小売業（同+3.5%）が増加に寄与した一方、各種商品小売業（同▲0.8%）、機械器具小売業（同▲4.0%）は減少に寄与している。燃料小売業の伸びは横ばいとなったが、夏場の需要増加に向けて名目値で全体を大きく押し上げる傾向は続く見込みだ。自動車

に関しては、4-6月期を通じて小型乗用車の新車投入効果により好調に推移した。また、織物・衣料・身の回り品小売業はクールビズ効果で紳士服に動きがあったことに加え、平均気温が平年より高めだったことで夏物衣料品が比較的好調であった。一方、機械器具小売業はデジタル家電製品などアテネ五輪による反動減があったものの、エアコンや扇風機などに動きがみられマイナス幅は縮小した。

総じて夏季ボーナス増加の見通しを背景に季節商品に動きがあったことで前月よりも伸び幅は拡大し、6月の小売業販売は堅調な仕上がりであったといえる。



●4-6月期の小売業販売額は堅調な仕上がり

4-6月期の小売業販売額は前年比+3.3%と、1-3月期（同0.0%）からプラスが明確化した。石油製品の価格上昇による名目値での押し上げという傾向を割引いても、4-6月期の小売業販売額は堅調な仕上がりだった。雇用・所得環境の緩やかな改善傾向に伴い、4-6月期の個人消費も底堅く推移したことが示唆されよう。先行きは消費マインドも安定していることを考えれば、7-9月期も個人消費が景気を下支えする可能性が高い。

